

蜂蜜のボツリヌス菌について

4月7日(金)東京都福祉保健局より、国内では初めて、はちみつの摂取が原因とされる乳児ボツリヌス症による死亡事例の発表がありました。

1歳未満の乳児は腸内細菌叢（ちょうないさいきんそう＝多種多様な腸内細菌の集まり）および腸管による排出運動が未熟であり、免疫の仕組みが完全にできあがりません。

その為、非加熱の野菜や果物、加熱・殺菌の足りない自然由来の食品（120度4分間未満あるいは100度6時間未満）を与えると、そこにボツリヌス菌の芽胞（がほう＝耐久性の高いカビの胞子のようなもの）が存在していた場合、乳児の腸内は繁殖しやすい環境になってしまいます。

特に、自然界のどこにでも存在するボツリヌス菌は、乳児の腸内で繁殖すると、乳児ボツリヌス症を発症して死に至る危険があります。

蜂蜜は、天然のままの非加熱状態なのですが、強い糖の浸透圧による殺菌作用を持っています。

その為、一般の細菌は蜂蜜中では生きてゆくことができませんが、例外的にボツリヌス菌の「芽胞」は強い殻に覆われており、蜂蜜中でも死滅せずに生き残ってしまいます。

その為、その芽胞が人の腸内に入ると発芽してボツリヌス菌が増殖し、その菌が中毒の原因となる毒素を出します。

1歳を過ぎれば人の免疫系（腸内細菌叢）が菌の増殖を抑え、解毒してくれるのですが、免疫系が未発達な1歳未満の乳児では、ボツリヌス菌が増殖し、菌が出す毒素を吸収してしまい、中毒の原因となります。

以上の様な理由から、1歳未満の乳児には蜂蜜や蜂蜜製品を与えるべきではありません。

東京都福祉保健局のホームページにも、「蜂蜜自体はリスクの高い食品ではありません。1歳未満の乳児に蜂蜜を与えてはいけませんが、1歳以上の方が蜂蜜を摂取しても、本症の発生はありません。」と掲載している通りです。

尚、当社でも厚生省からこの乳児ボツリヌス症の注意喚起の要請があった1987年より、1歳未満の乳児へ蜂蜜を与えないよう注意喚起を行っております。

2017年4月13日
株式会社 山田養蜂場